

令和3年度かしわらっ子はぐくみテスト
における結果の概要について

柏原市教育委員会

1. 目的

- 児童が自身の学習状況について知ることにより、学習に対しての目標を持ち、その向上にむけて意欲を高める。
- 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- これらの取組みを通して、学力向上について継続的なPDCAサイクルを確立する。

2. 概要

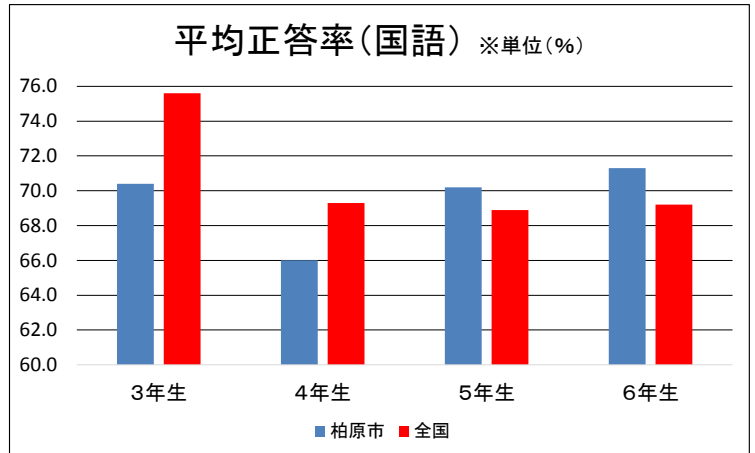
- (1)実施日 令和3年12月10日(木)～11日(金)のいずれか1日
- (2)対象 柏原市立小学校に通う第3学年から第6学年の児童
- (3)内容 ①教科に関する調査(国語、算数)
②生活習慣や学習に関する質問紙調査(i-Check)

令和3年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

今年度の結果(国語)

平均正答率		
	柏原市	全国
3年生	70.4	< 75.6
4年生	66.0	< 69.3
5年生	70.2	> 68.9
6年生	71.3	> 69.2

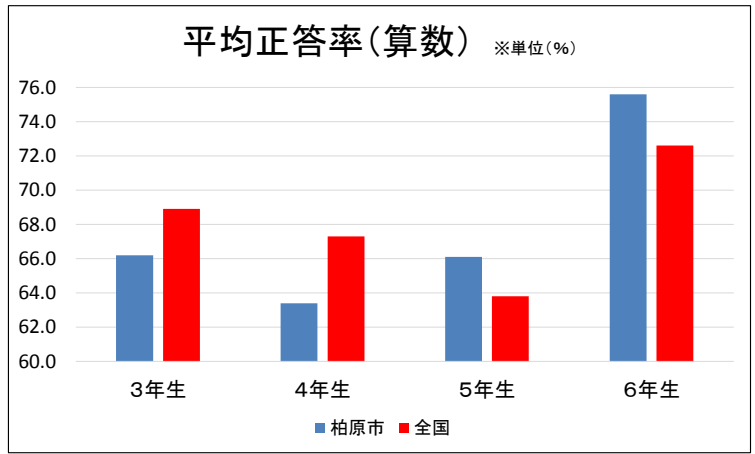
※単位(%)



今年度の結果(算数)

平均正答率		
	柏原市	全国
3年生	66.2	< 68.9
4年生	63.4	< 67.3
5年生	66.1	> 63.8
6年生	75.6	> 72.6

※単位(%)

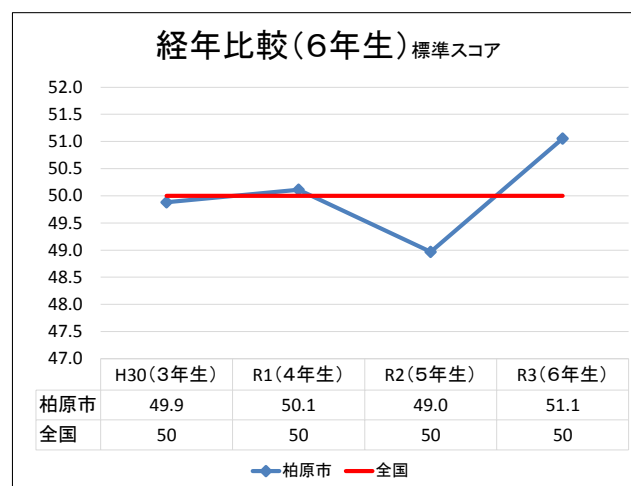
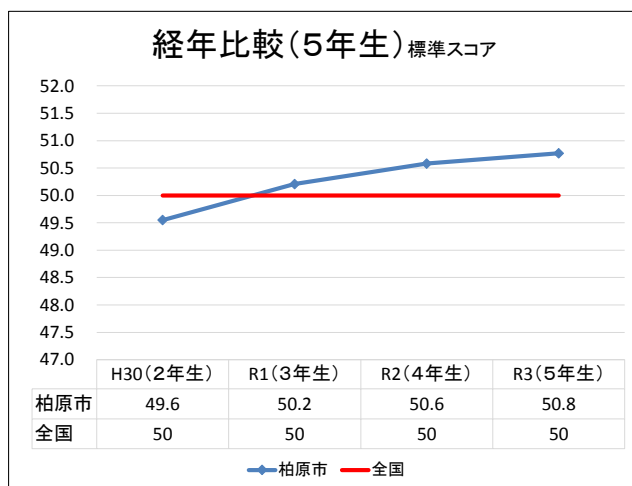
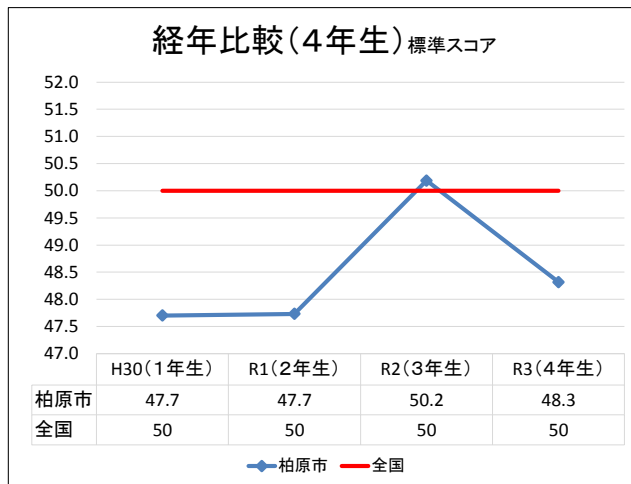
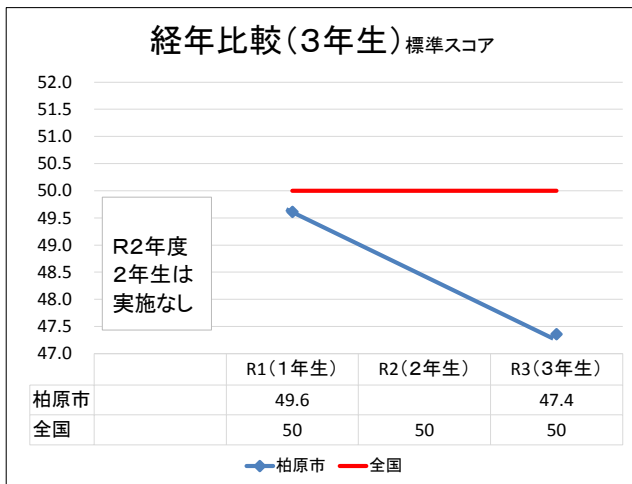


国語、算数ともに、3年生、4年生において全国平均を下回ったが、5年生、6年生では全国平均を上回る結果となった。

令和3年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

同一集団の成長(国語)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

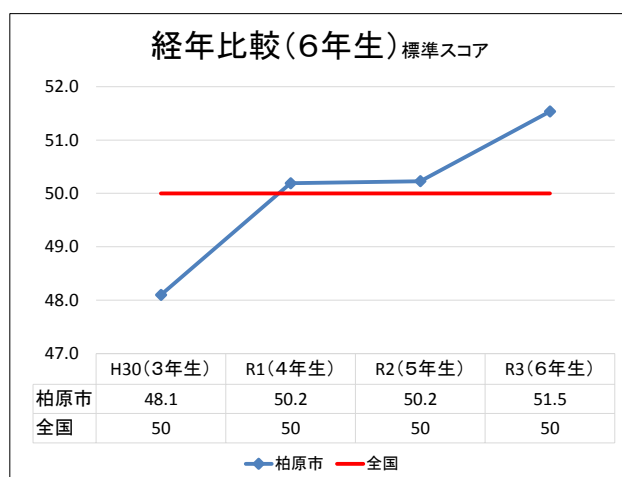
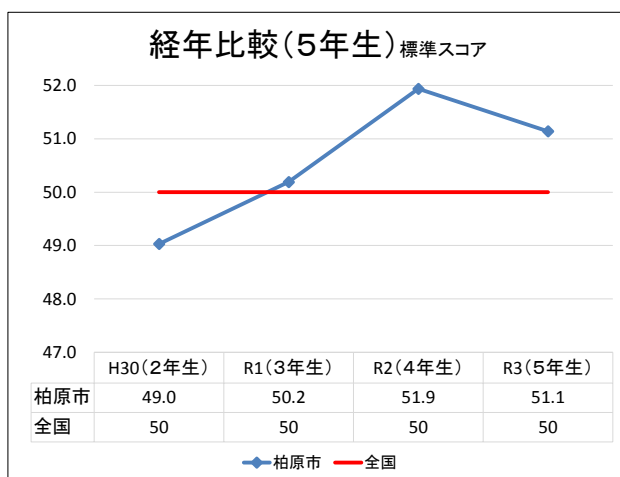
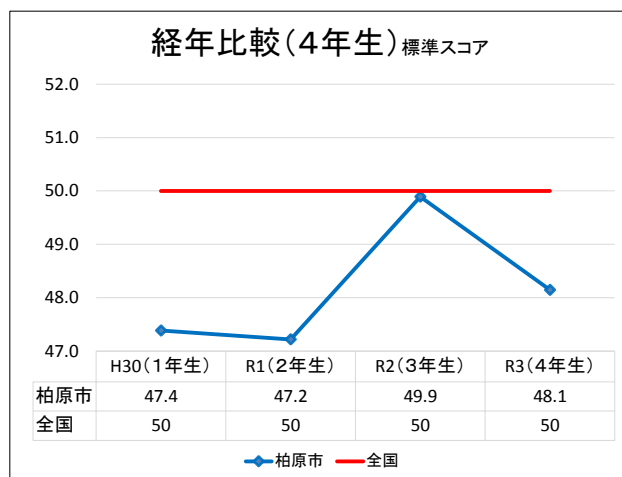
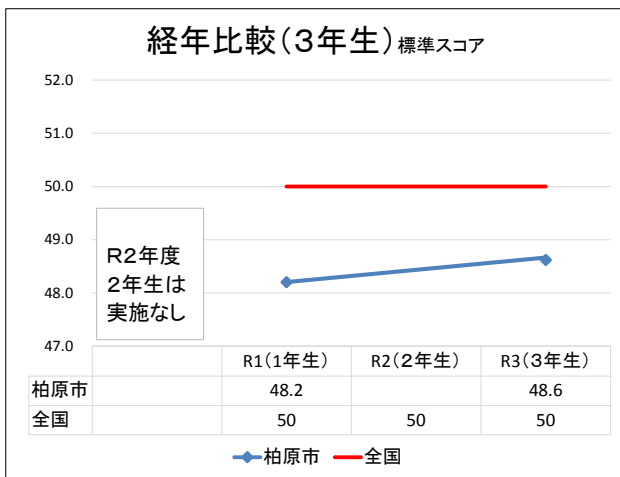


- ・3年生、4年生が前回調査より下降している。
- ・5年生は継続して上昇傾向である。
- ・6年生は昨年度全国を下回ったが、今年度は全国平均も上回り、過去4年で最も良い結果となった。

令和3年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

同一集団の成長(算数)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。



- ・3年生は全国を下回るものの、前回調査からやや上昇。
- ・4年生は、前回調査から下降している。
- ・5年生は昨年度に比べやや下降したものの、全国を上回ることにはできている。
- ・6年生は継続して上昇傾向である。

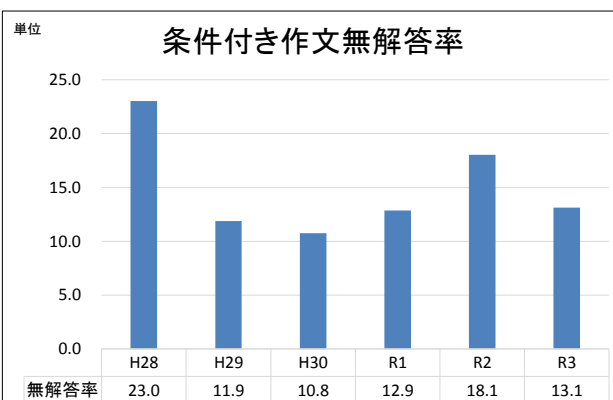
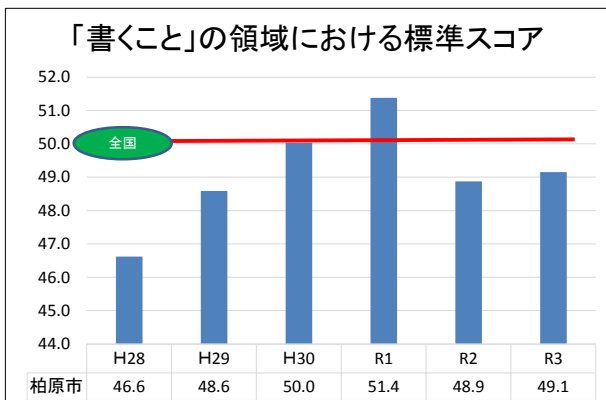
「書く力の育成」を検証

①

国語「書くこと」の領域における標準スコア(全国比)の推移

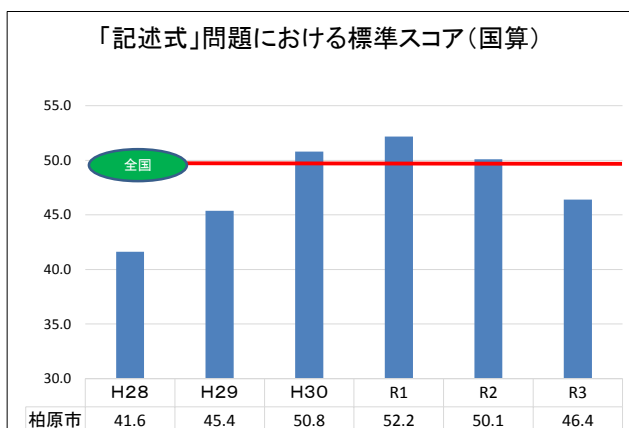
国語における条件付き作文問題無解答率の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。



「記述式」問題における標準スコア(全国比)の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。



市で重点的に取り組んでいる「書く力の育成」に関するデータである。

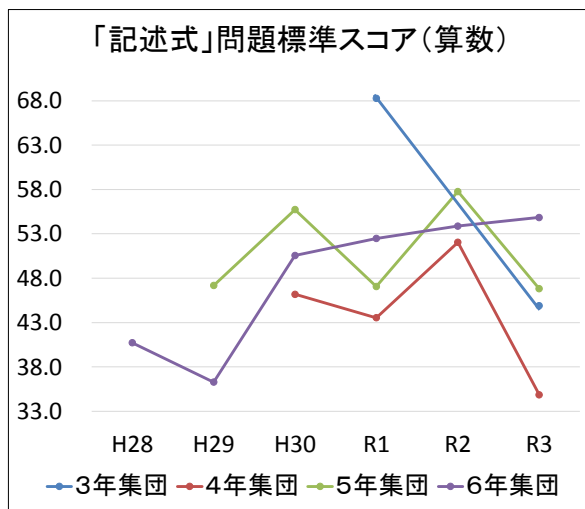
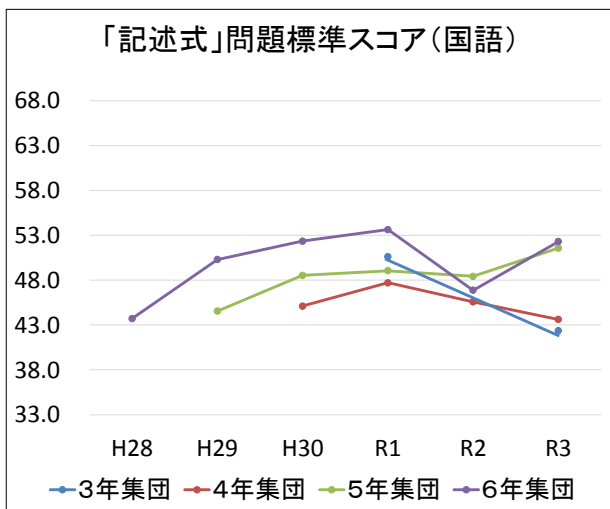
① 国語科における「書くこと」領域について、昨年度に比べ上昇している。条件付き作文の無解答率も減少している。

② 教科別の「記述式」問題の同一集団の推移を見てみると、国語は5, 6年生は昨年度に比べ上昇しているが、3, 4年生は下降している。算数でも6年生以外は下降しており、特に算数で求められる思考・判断・表現などの記述に課題があるととらえる。

②

「記述式」問題における同一集団の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

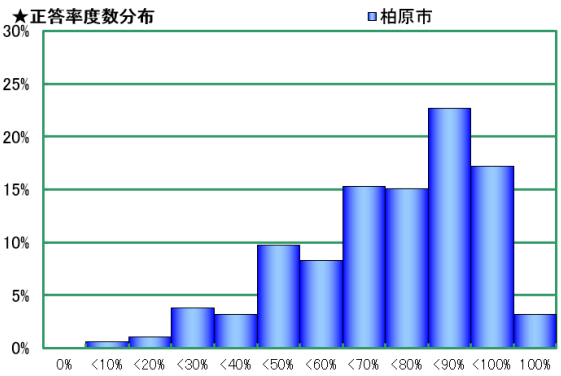


国語(3年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		標準スコアによるカテゴリ間の比較
		柏原市	全国	
	全体	70.4	75.6	
	基礎	75.2	79.4	
	活用	60.4	67.5	
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.2	79.8	
	情報の扱いに関する事項	60.5	64.5	
	話すこと・聞くこと	78.2	82.2	
	書くこと	51.1	61.3	
評価の観点	読むこと	74.3	77.2	
	知識・技能	72.8	77.3	
	思考・判断・表現	65.8	71.8	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	58.4	68.6	
	選択	68.8	72.2	
	短答	84.3	87.8	
	記述	57.6	68.0	



▼全体的に全国平均を下回っている。「学習指導要領の領域等」をみると、「書くこと」の領域が一番開きが大きく、全国を10.2%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

国語(3年)問題で課題の見られた設問 6(1)

生で (正答率)
にす二 (年答)
なが年 (り、生例)
ま三ま (ま三ま)
す年で (°生は)
°生は (か、ら)
か、ら (はん、に)
はん、 (音ん)
、に (楽の)
音ん (の先)
楽の (先生)

著作権の関係で表示できません。

「情報と情報の関係について理解し、内容の中心を明確に書く」ことができるかどうか問われている問題である。空欄の直前にある「じゅぎょうを教える先生」の違いについて、【メモ】と【文章の下書き】とを対比し、前段落の書き方を参考にしながら作文する必要がある。誤答の多くが、【メモ】の表を読み取ることができていないことに起因するものであった。問われている内容に応じて、必要となる情報を見つけることに課題があるということがわかる。授業の中で「書くこと」に取り組む際に、集めた情報を整理・比較しながら共通点や相違点を見つける活動や集めた情報の中から必要な情報を選ばせる活動が必要である。

正答率は、本市が45.8%、全国が51.2%。本市の無解答率が26.1%で、3年生国語の中でいちばん高かった。

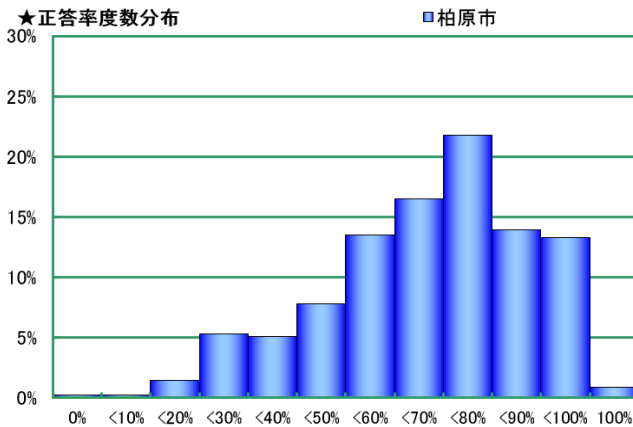
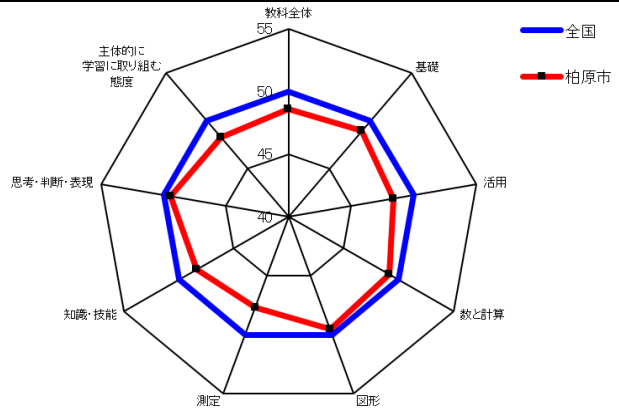
算数(3年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	66.2	68.9
	基礎	74.4	76.5
	活用	53.0	56.7
学習指導要領の領域等	数と計算	65.2	67.1
	図形	68.5	69.9
	測定	67.6	72.5
評価の観点	知識・技能	73.1	76.2
	思考・判断・表現	43.8	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	55.5	59.6
問題形式	選択式	71.6	74.5
	短答式	64.0	66.3
	記述式	33.4	37.2

＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞



▼全体的に全国平均を下回っている。「学習指導要領の領域等」をみると、「測定」の領域が一番開きが大きく、全国を4.9%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(3年)問題で課題の見られた設問 18(1)

著作権の関係で表示できません。

(正答)

午前10時20分

「ある時刻から一定時間前の時刻を求めること」ができるかどうか問われている問題である。本問では資料から解決に必要な数値を見いだすことが必要である。資料によれば、体験には合わせて70分(1時間10分)かかることがわかる。さらに、問題文から問題場面を把握した上で、「おそくとも」に対応した時間を導き出さなければならない。その際、求める手段として、例えば時計の文字盤やテープ図を用いることが考えられる。このように情報を整理し、解決に向かって順序よく考えていくことが必要である。

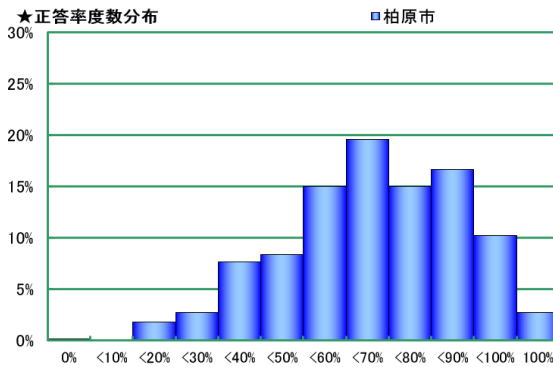
正答率は、本市が26.4%、全国が32.9%で、正答率が3年算数の中で一番低かった。本市の無解答率は20.5%であった。

国語(4年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞
		柏原市	全国	
	全体	66.0	69.3	
	基礎	68.5	71.8	
	活用	61.3	64.7	
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に	70.2	74.0	
	情報の扱い方に	62.2	64.4	
	我が国の言語文化に	88.5	86.2	
	話すこと・聞くこと	61.0	63.4	
	書くこと	49.5	59.6	
評価の観点	知識・技能	69.8	72.8	
	思考・判断・表現	59.9	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度	50.5	58.2	
問題形式	選択式	70.9	72.6	
	短答式	70.6	73.4	
	記述式	50.2	57.5	



○「学習指導要領の領域等」をみると、「我が国の言語文化に関する事項」の領域が全国を上回った。

▼「書くこと」の領域が一番開きが大きく、全国を10.1%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

国語(4年)問題で課題の見られた設問 6(2)

（正答例）

し時す
ま間。山
うがい田
とかすさ
思か取ん
いっりの
までげて
す遊しい
。ぶム案
時だに
間と意
が、見
短じが
くゆあ
なんり
つびま
てに

著作権の関係で表示できません。

「互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる」ことができるかどうかが問われている問題である。誤答の多くが、本問で求められている「誰の提案なのかを明らかにする」ことができていない解答であった(全体の28.3%)。話し合いをする際には、話題や方向を適確に捉え、自分の考えを持ちながら参加することが大切である。そのために例えば、話を聞きながら誰がどのような主旨の意見を話したかをメモに記すような指導をすることが必要である。

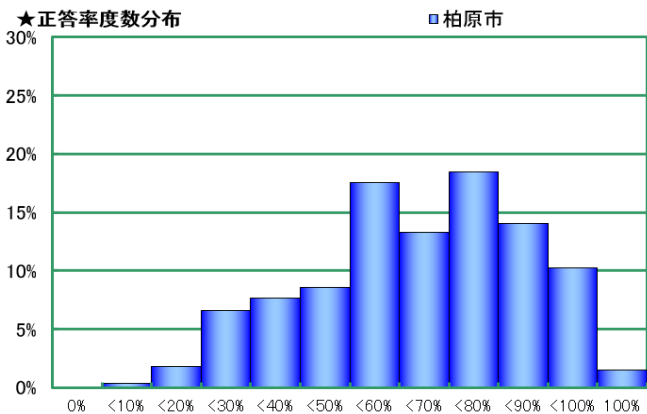
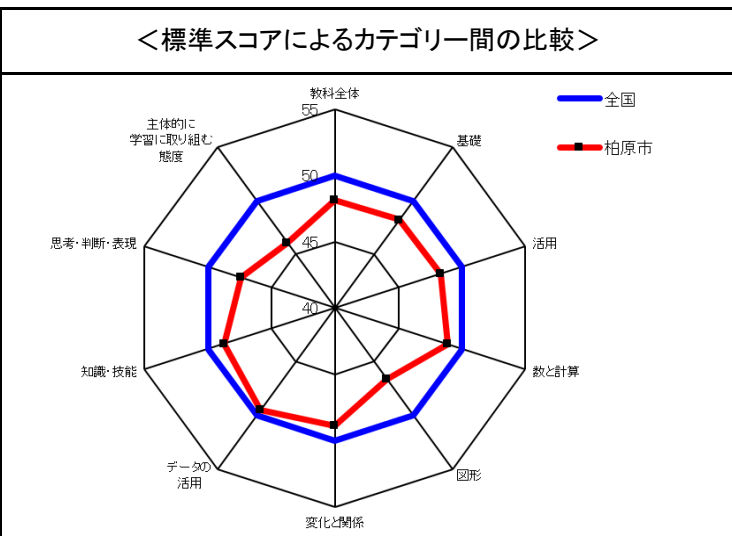
正答率は、本市が38.8%、全国が43.7%。本市の無解答率が21.0%。4年生国語の中で最も正答率が低く、無解答率が高かった。

算数(4年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	63.4	67.3
	基礎	67.5	71.2
	活用	54.4	58.6
学習指導要領の領域等	数と計算	66.3	68.6
	図形	55.7	64.3
	変化と関係	70.9	74.3
	データの活用	63.0	64.7
評価の観点	知識・技能	68.6	71.1
	思考・判断・表現	52.1	58.8
	主体的に学習に取り組む態度	43.1	54.8
問題形式	選択式	66.1	69.1
	短答式	65.8	69.5
	記述式	25.5	36.7



▼全体的に全国平均を下回っている。「学習指導要領の領域等」をみると、「図形」の領域が一番開きが大きく、全国を8.6%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(4年)問題で課題の見られた設問 17(3)

著作権の関係で表示できません。

「ひし形の特徴を理解し、問題の答えがひし形になるようにヒントを出す」ことができるかどうか問われている問題である。
 図形の指導においては、図形を構成する要素である辺の長さや角の大きさ、それらの位置関係に着目し、その性質を見いだす(図形→性質)だけでなく、ある性質をもとに既習の図形をとらえ直す(性質→図形)ことが重要である。そのためには本問のように、他者に伝える目的で図形を言語化することが効果的である。
 正答率は、本市が19.9%、全国が29.3%。本市の無解答率は23.0%。4年生算数の中で最も正答率が低く、無解答率が高かった。

(正答例)
 (例1) 辺→4つの辺の長さは全て等しいです。
 (例2) 対角線→2本の対角線は垂直に交わっています。

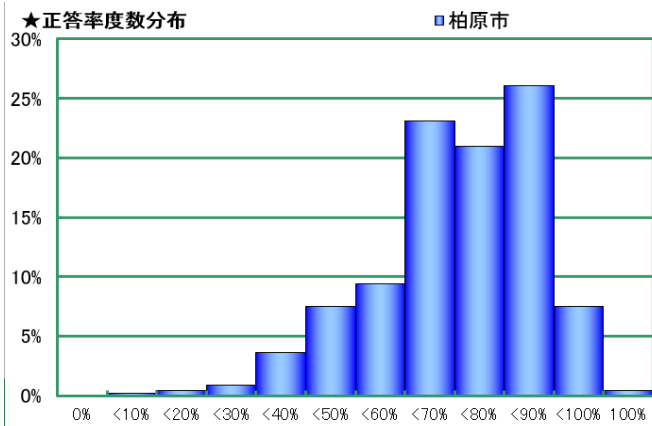
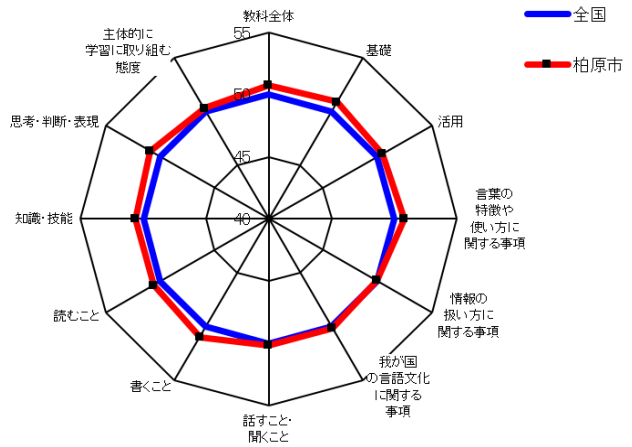
国語(5年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	70.2	68.9
	基礎	73.1	71.7
	活用	63.6	62.6
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.0	73.7
	情報の扱いに関する事項	64.7	64.9
	我が国の言語文化に関する事項	24.1	23.3
	話すこと・聞くこと	71.0	70.5
	書くこと	65.5	62.7
評価の観点	読むこと	75.4	73.9
	知識・技能	69.9	68.8
	思考・判断・表現	70.5	68.7
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	69.7	69.0
	選択式	65.3	64.2
	短答式	76.2	75.4
	記述式	71.8	69.7

＜標準スコアによるカテゴリ間の比較＞



○「学習指導要領の領域等」をみると、「情報の扱いに関する事項」のみ全国を0.2%下回ったが、それ以外の領域等、全体的に全国を上回る結果だった。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

国語(5年)問題で課題の見られた設問 3(2)

著作権の関係で表示できません。

「修飾語と被修飾語の関係を理解」しているか問われている問題である。
 誤答の多くが、「1 近所の」を選んでいった(全体の57.3%)。修飾と被修飾の関係は、直前や直後の連なった場合だけに限らず、文中の自由な位置に置かれている場合もある。そうした日本語の特徴について確認するとともに、日常的に出会う様々な文を材料に、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係に着目しながら文の構成を理解できるよう指導することが必要である。

正答率は、本市が12.4%、全国が16.0%で、5年国語の中で一番正答率が低く、全国との開きも大きかった。

(正答) 4 始まった

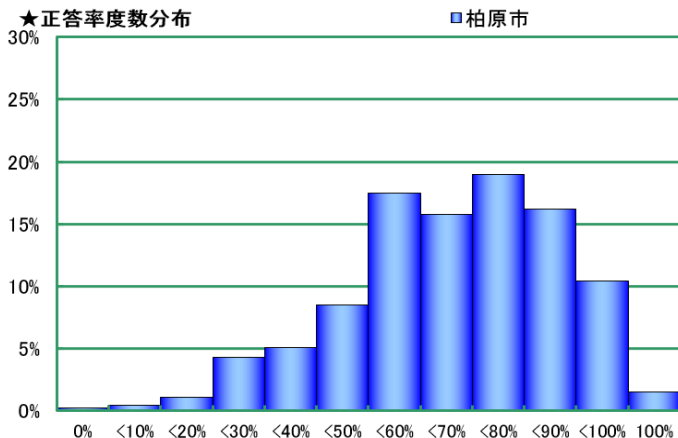
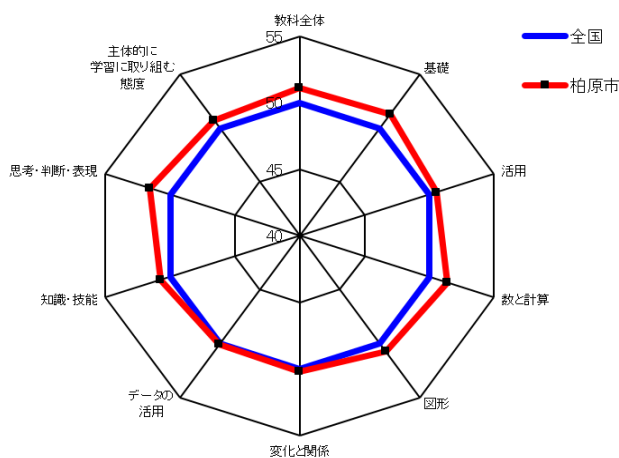
算数(5年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	66.1	63.8
	基礎	74.2	71.7
	活用	43.4	41.9
学習指導要領の領域等	数と計算	64.6	61.8
	図形	76.9	75.1
	変化と関係	59.4	58.8
	データの活用	62.6	62.3
評価の観点	知識・技能	73.5	72.0
	思考・判断・表現	52.4	48.7
	主体的に学習に取り組む態度	49.1	47.3
問題形式	選択式	67.8	65.4
	短答式	70.7	68.1
	記述式	18.4	19.7

＜標準スコアによるカテゴリ間の比較＞



○「学習指導要領の領域等」、「評価の観点」のすべてで全国の平均正答率を上回った。
▼「問題形式」をみると、「記述式」が全国を1.3%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

算数(5年)問題で課題の見られた設問 19(2)

著作権の関係で表示できません。

「にわとり小屋の混み具合を、単位量あたりの大きさを用いて比べる」ことができるかどうか問われている問題である。

「混み具合」は面積や人数といった一つの量だけでは比較することができない事象であるため、二つの内の一方をそろえて(もとにする量)、他の量で比較する(比べる量)方法が用いられる。指導にあたり、まずは「混んでいる」とはどのような状態なのか、具体的な場面で理解させることが重要である。

また、計算の結果が何を表しているかを言語化し、式の数値から問題場面をとらえ直しするような活動も必要である。

正答率は、本市が25.4%、全国が29.3%。本市の無解答率が30.9%。5年生算数の中で最も全国との正答率の差が大きく、無解答率が高かった。

(正答例)

Cの小屋は、 $54 \div 18 = 3$ Dの小屋は、 $60 \div 25 = 2.4$ となって、Cの小屋の方がにわとりの数が多くなります。だから、こんでいるのは「C」の小屋です。

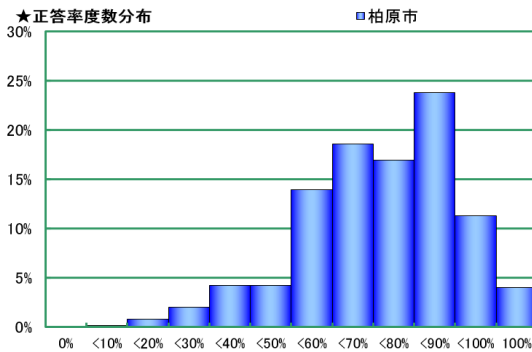
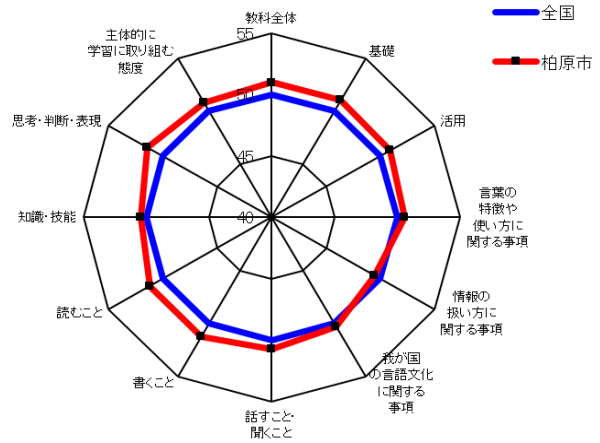
国語(6年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	71.3	69.2
	基礎	71.7	69.6
	活用	70.6	68.6
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	72.1	70.7
	情報の扱いに関する事項	68.2	70.1
	我が国の言語文化に関する事項	67.3	66.1
	話すこと・聞くこと	71.9	69.7
	書くこと	69.2	65.8
評価の観点	読むこと	73.7	70.7
	知識・技能	71.2	70.3
	思考・判断・表現	71.5	68.6
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	67.3	65.1
	選択式	72.8	70.1
	短答式	70.5	70.1
	記述式	69.4	66.4

＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞



○「学習指導要領の領域等」をみると、「情報の扱いに関する事項」のみ全国を1.9%下回ったが、それ以外の領域等、全体的に全国を上回る結果だった。

国語(6年)問題で課題の見られた設問 6(2)

でらになのがま
すな光つ量減ば
くがてがりた
な正、不、き
るし目安なの
かくの定め回
ら入中にだ数

(正答例)

「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く」ことができるかどうか問われている問題である。
空欄の直前にある「画面を長時間見続けると」を参考に、【眼科のホームページの一部】と【本の一部】の内容の両方から引用することが求められる。誤答の多くがどちらか一方しか引用していなかった(24.2%)。
授業において、文章全体の構成をとらえ、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約したり、複数の資料を結びつけ必要な情報を見つけたりする活動を取り入れることが必要である。

正答率は、本市が56.0%、全国が60.1%。本市の無解答率が10.9%。6年生国語の中で、漢字に関する設問を除くと、全国との開きが大きく、無解答率も高かった。

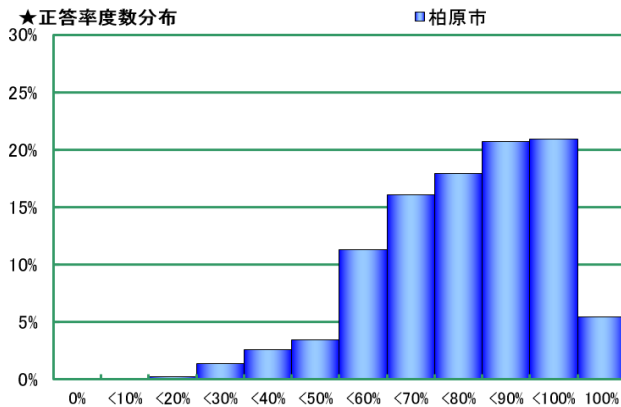
著作権の関係で表示できません。

算数(6年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		標準スコアによるカテゴリー間の比較
		柏原市	全国	
	全体	75.6	72.6	
	基礎	83.3	79.8	
	活用	58.7	56.8	
学習指導要領の領域等	数と計算	79.0	76.7	
	図形	75.2	72.2	
	変化と関係	60.1	54.4	
評価の観点	知識・技能	80.1	77.1	
	思考・判断・表現	62.1	59.3	
	主体的に学習に取り組む態度	56.8	53.7	
問題形式	選択式	75.0	72.4	
	短答式	80.6	77.4	
	記述式	42.6	38.8	



○全ての項目で全国の正答率を上回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

算数(6年)問題で課題の見られた設問 16(3)

著作権の関係で表示できません。

「比を使って、パソコンの画面に表示された写真の横の長さを説明する」ことができるかどうか問われている問題である。

算数では「問題解決型」の学習の過程で、算数に必要な数学的なものの見方・考え方を養っていく。比の学習に限ったことではないが、求め方を暗記的に学ぶ(インプット)だけでなく、比の考え方を活用する場面を設定し、学んだことを自分の言葉で表現(アウトプット)することが必要である。授業づくりにおいて意識していきたい。

正答率は、本市が45.5%、全国が41.7%。本市の無解答率が14.3%で、6年生算数の中で一番高かった。

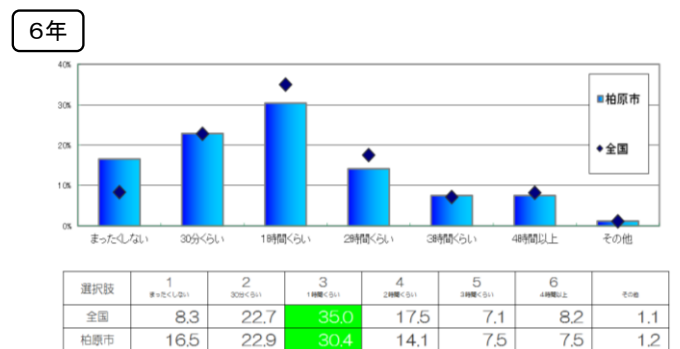
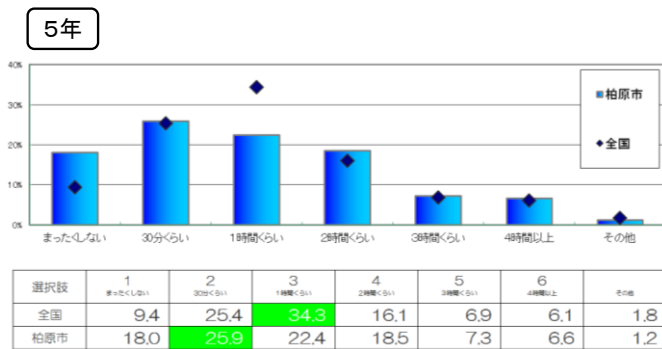
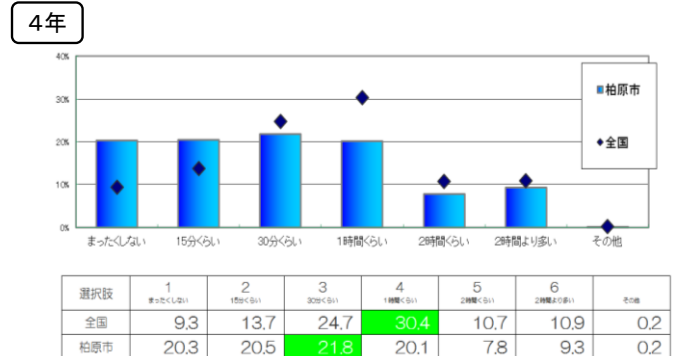
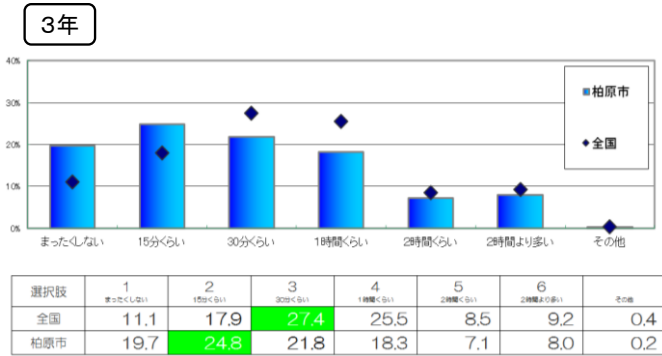
(正答例)

[横の長さ]216mm

[説明]写真の縦の長さとの比は2:3なので、横の長さをXmmとすると、 $2:3=144:X$ $X=3 \times 72=216$ だから、216mmです。

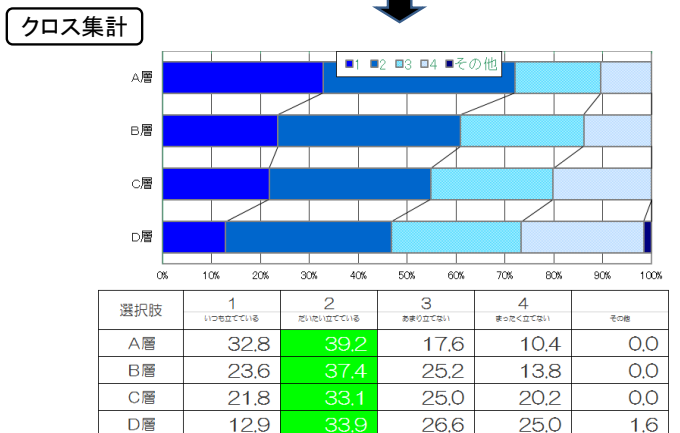
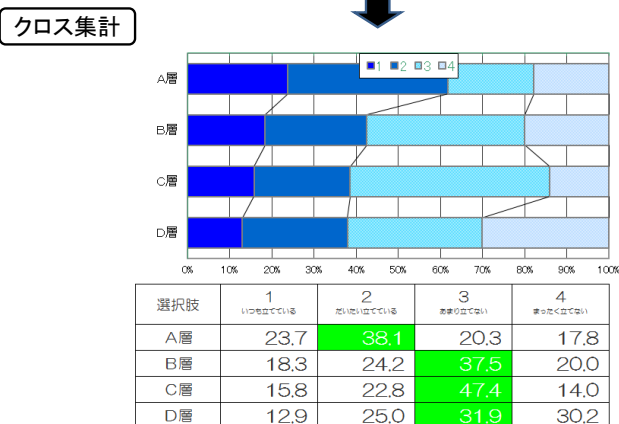
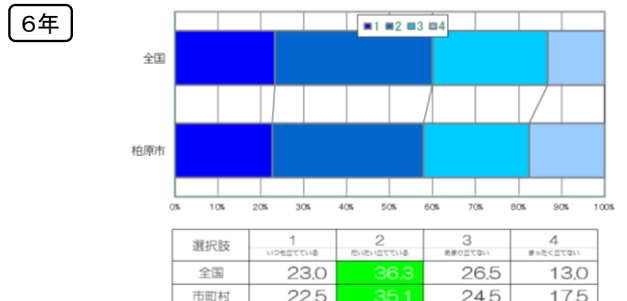
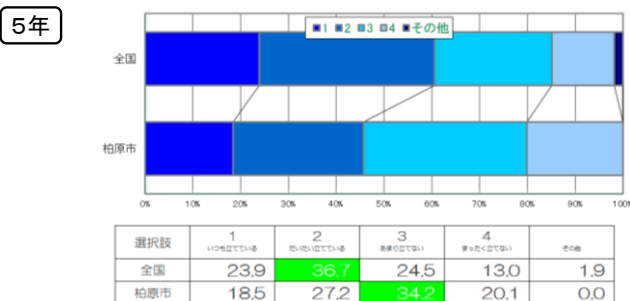
アンケート結果 (i-Checkより)【学習習慣①】

○学校の授業以外で、平日（月～金）は、1日にどれくらい勉強しますか。（塾などでの勉強時間も含む）



○勉強するときは、自分で計画を立てていますか。（5年生、6年生のみ）

※クロス集計・・・学力調査の正答率を4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けています。



○「平日の勉強時間」について、6年生は概ね全国平均と同様の学習時間であるが、他の学年は全国と比較して学習時間が短い傾向にある。また、市で設定している学習時間のめやす(学年×10分)に達していない児童、特に「全くしない」児童も多い。

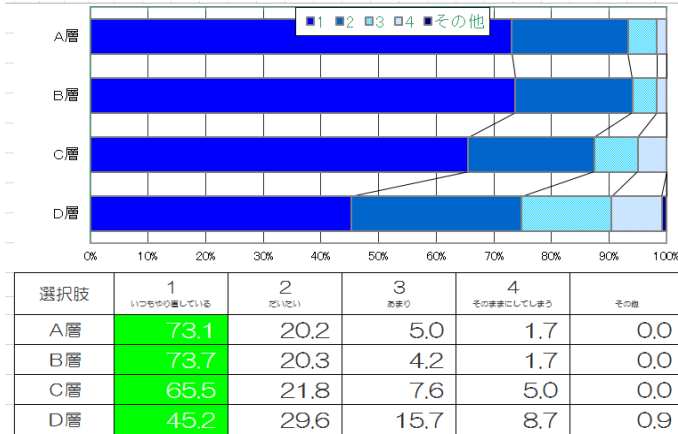
○「自分で計画を立てているか」について、学力調査の正答率が高い児童ほど、自分で計画して学習をすすめている割合が高い。

○テストで間違えた問題は、後でやり直ししていますか。

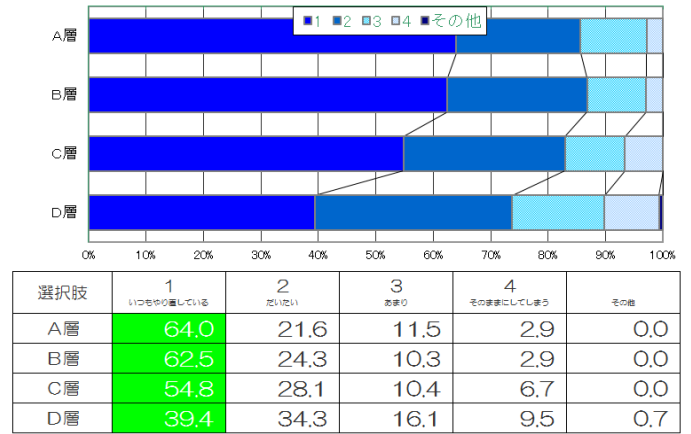
※クロス集計・・・学力調査の正答率を4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けています。

(1. いつもやり直している 2. だいたい 3. あまり 4. そのままにしてしまう)

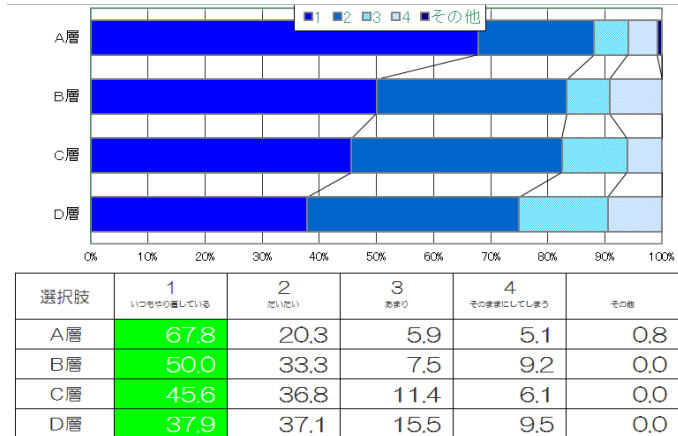
3年



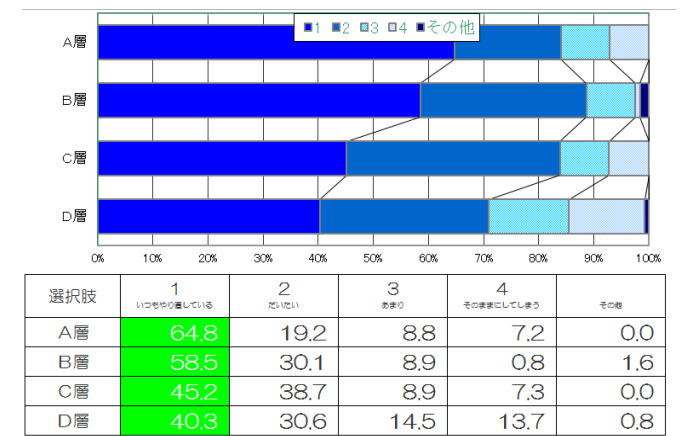
4年



5年



6年



○全体的にすべての学年で「いつもやり直している」児童の割合が多い。
 学力層別にみると、どの学年も学力調査の平均正答率が高い児童ほど「間違った問題をやり直す」意識が高いことがわかる。

○授業において、テストを返す際に間違った問題を児童が意欲的にやり直すことができるような活動を取り入れることが重要である。また、子どもたちに「問題を間違えたときこそ、力をつけるチャンスである」という意識を持たせることができるように、学校でも家庭でも声をかけていくことが効果的である。

○教育委員会としての今後の取組み

- ・教員の指導力育成のために、教員が主体性を持ち参加できる研修を企画・運営していく
- ・かしわらっ子はぐくみテストと全国学力・学習状況調査の結果から共通した課題に対して正対した授業改善について研修を進める
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業を実施するなど、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できる機会を設定する
- ・学校公開にて、授業の参観及び取組み報告会に参加
- ・「思考力・判断力・表現力」の育成をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施する

○学校における今後の取組み

- ・指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を活用して、子どもたちにとっての「わかる授業づくり」をすすめる
- ・各学年で課題の大きかった「思考力・判断力・表現力」に焦点をあて、活動の充実を図る
- ・ICT教育推進リーダーを中心に、ICTを活用した教育を充実させる
- ・自学自習力の向上と家庭学習習慣の定着に向けた取組みを充実させる
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切に、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる

○家庭にお願いすること

学習能力の向上につなげる

① 基本的な生活習慣の定着

- ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる

② 家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める
- ・毎日の宿題ができているかを確認する
- ・自分で学習の計画を立てることや、間違った問題をやり直す習慣を身につける

③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する